

平成28年度北海道地区7国立大学法人工事入札監視委員会定例会議議事要旨

開催日及び場所	平成28年11月7日(月) 北海道大学学術交流会館第1会議室	
委 員	委員長 岸浪 建史(学識経験者) 委 員 石川 信行(公認会計士) 委 員 菊地 均(名誉教授) 委 員 田中 宏(弁護士)	
審議対象期間	平成27年10月1日～平成28年9月30日	
抽 出 案 件 (合 計)	5 件	(備 考) 今年度の委員長は昨年度に互選により岸浪氏に決定している。
工事(小計)	5 件	審議を開始するに当たり、菊地委員より今年度の審議対象案件の抽出の考え方が説明された。 抽出案件の個別審議については、各発注機関の担当者から、説明と質問等への回答がなされた。 現委員の任期は平成29年9月末をもって満了し、岸浪委員長、菊地委員、石川委員については再任を承諾、田中委員については再任が難しく、後任が決定次第連絡する旨周知があった。
一般競争 (政府調達協定対象工事)	0 件	
一般競争 (政府調達協定対象工事を除く)	4 件	
通常指名競争	0 件	
随意契約	1 件	
設計・コンサルティング業務	0 件	次回開催時の案件抽出は、岸浪委員が指名された。
委員からの意見・質問、それに対する意見等	意見・質問	回 答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	・審議資料の作成にあたっては、設計図だけではなく工事前及び工事後の写真、見積金額や契約金額の内訳を添付する等により、各案件の審議において、委員会委員が各案件の内容について判断できるよう工夫願いたい。 ・現在の審議は、各条件において抽出された案件を集中的に見るという手法によって行っているが、それ以外の様々な角度から様々な見方をすることなど今後検討願いたい。	

質 問	回 答
1. 審議対象件数及び契約金額一覧について (基幹校より説明) ・特になし 2. 点検事項該当案件一覧表について (基幹校より説明) ・特になし 3. 抽出案件の考え方について (菊地委員より説明) 4. 建設工事における抽出案件の審議 <u>(1) 競争入札において応札者が1者のみの工事</u> 1. 【北海道大学】病院非常放送設備改修工事 ・審議を進めるに当たり、設置機器や工事費の内訳を口頭で説明されても分かりにくいので、必要となる予定価格や契約金額の内訳等の資料を添付するなど工夫願いたい。 ・当調達の一般競争参加資格に適合する業者は何社程度あるのか。 ・過去3年から5年ぐらいの間において、当該落札業者の同様の工事（落札）実績はあるか。 ・見積もりはどのように徴収したのか。 ・一般競争入札の条件をあまり満たしていないことにならないか。 ・結果として応札者は1社となっており、本来の一般競争入札の条件をあまり満たしていないと言わざるを得ない。 ・入札説明書を3社に配布し、参加者が1社であったということだが、入札をしなかった2社に対して、ヒアリング等を行ったのか。 ・結果的に1社しか応札できなかったということなので、健全な競争を促進するという観点から様々な工夫をしていただきたい。 4. 建設工事における抽出案件の審議 <u>(2) 競争入札において1回目の入札で落札率が99%以上の工事</u> 2. 【北海道大学】北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所学生宿泊棟給湯設備改修工事 ・給湯設備はそれほど値段に差がないものであるもので、入札金額に差がでるとすれば工事費をどうするかである。にもかかわらず落札しなかった他2社の入札額になぜこれほど差がでたのかが不可解である。	・特殊な工事ではないため、複数社ある。 ・病院の電気工事入札に参加している。 ・非常放送設備を扱っている業者は限られており、専門業者約3社に図面を提示し見積もりの提出を依頼したが、多棟化という設備が特殊であったため、見積もりを提出したのはJVCケンウッドだけであった。 ・見積もりを提出できる専門業者は1社であったが、施工（応札）する業者は一般の電気工事業者となるので複数社応札可能である。 ・2社に対しヒアリングを行っており、施工実績に該当する案件がなかったことが入札に参加しなかった理由である旨回答を得ている。

質 問	回 答
・分かる範囲で、工事費の中身の差異がどういうところにあるか教えていただきたい。 4. 建設工事における抽出案件の審議 （4）入札参加者に対して低入札業者の割合が80%以上の工事 3. 【北海道教育大学】岩見沢校スポーツ棟（第1体育館）等屋上防水改修工事 ・予定価格と入札金額がこれほど乖離したのはどうしてなのか。 ・これまでの審議についても同様であるが、予定価格の算定内訳や入札額の内訳が資料として示されていない。今後はこれらの資料を添付した方がよい。 ・予定価格を積算する際の共通経費を機械的に算定した結果、非常に高い予定価格になってしまった印象を受けた。 4. 建設工事における抽出案件の審議 （3）落札率が50%以下の工事 4. 【小樽商科大学】学生支援棟多目的便所新設工事 ・入札率が低くなった理由等について調査はしているか。 4. 建設工事における抽出案件の審議 （1、2）競争入札において応札者が1者のみで、1回目の入札で落札率が99%以上の工事 5. 【北見工業大学】校舎外壁タイル補修工事 ・不落となった入札における入札金額の推移を教えてください。 ・そのときの予定価格はいくらか。 ・そのときの応札業者は、(株)山本工務店か。 ・この工事の内容はタイルの張り替えが主であるが、この外壁のタイルは耐震性のある特殊なものではないのか。 ・これまでも指摘したが、審議のためには、改修前後の比較や工事箇所等が分かるようなものを用意していただきたい。 ・落札業者は、平成25年度と平成27年度においても外壁タイル補修工事を受注しているが、オホーツク管内にはこのような工事を受注できる企業はどの程度あるのか。	・入札額の内訳を確認すると、給湯設備と給油設備について、入札者間で約30万円から40万円の差があった。 管工事という、ある程度広い枠組みで業者を選別したため、給湯設備や給排水の分野に得意な業者と、それ以外の業者とで差が開いたということが考えられる。 ・全体的に施工単価自体が低いことに加え、予定価格算定において、諸経費については積算基準をもとに工事費に対して一定の率を乗じて算出しているが、それを大きく下回る形で落札業者が諸経費関係を計上してきたため、200万円近い差が出ている。 ・本件は本学の規程により予定価格が1,000万円未満の場合となり、最低基準価格を定めていないが、落札業者に対する聞き取り調査や内訳の確認をしたところ、拾い漏れがあるわけではなく、ブースや建具が安くなっていたこと、また、落札業者は下請け業者をあまり使わずにすむ体制になっており、下請等のコストがかからないことにより安価になったと考えられる。 ・1回目の応札で約70万円、2回目応札で約40万円の差となったが、3回目に入札者が辞退した。 ・1,409万円である。 ・(株)山本工務店は応札していない。 ・一般的なタイルであり、本工事は外壁タイルの落下を防止するための改修工事である。 ・図面上ではタイル落下危険箇所等記載しているが、今回の審議資料には添付していなかった。 ・相当の企業がいると考える。

質 問	回 答
・参加資格の要件について、過去の施工実績の要件等を限定しすぎており、競争条件を働かせるようもう少し検討する必要がある。 ・辞退した業者に対してヒアリングを行ったか。	・行っており、競争参加資格確認申請書提出後に他工事の受注が決定したことが理由である旨聴取している。